全国学力・学習状況調査結果

～傾向と改善に向けて～

平成31年４月18日、小学校６年生と中学校３年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。昨年度までは、国語も算数（数学）も主として「知識」に関するＡ問題と、主として「活用」に関するＢ問題に分けて行われましたが、今年度からはＡ問題とＢ問題に分けず、国語、算数（数学）に統一されました。また、中学校は今回初めて英語の調査を実施しました。

学力とは、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲などを含めた総合的なものですが、この調査においては、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分を対象としています。また、子どもたちの生活習慣や学習習慣の実態をつかむために、質問紙による調査も同時に実施されました。

本町の小学校６年生と中学校３年生の調査結果について、全国・全道の結果と比較した概要をお知らせします。

■本町の児童・生徒の学力傾向

小学生は、国語が全国・全道平均をわずかに下回りましたが、算数は全道平均を上回り全国と並びました。

中学生は、国語が全国・全道平均を上回りましたが、数学は全国・全道平均を下回っています。また、英語については全道を上回り、全国平均と並びました。

教科の領域ごとにみると、小学国語では「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国・全道平均を上回った一方、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国・全道を下回る結果でした。小学算数では「量と測定」「図形」「数量関係」が全国・全道を上回り、「数と計算」だけが全国を下回りました。

中学国語は「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国・全道を上回り、「話すこと・聞くこと」「読むこと」がわずかに全国を下回りました。中学数学は「図形」で全国・全道を上回りましたが、他は下回りました。また、中学英語は「聞くこと」「読むこと」が全国・全道を上回り、「書くこと」は全国・全道を下回りました。「話す」ことについては、パソコン等の環境が整わず、全ての学校のデータが集まらなかったため、比較していません。

※次ページ参照

■生活習慣や学習習慣等の傾向

小学生の質問紙からは、「地域行事に参加している」「新聞を読んでいる」が高い数値を示しています。中学生の質問紙からは、「自分にはよいところがある」「新聞を読んでいる」が高い数値となっています。

一方、小学生も中学生も「総合的な学習の時間で発表する活動をしている」や「授業以外で学習している時間」が全国・全道に比べてかなり低くなっています。

■問題解決に向けての取り組み

学校は今回の調査結果を踏まえ、子どもたちの一層の学力向上を目指します。児童生徒質問紙による生活面や学習面の課題については、校内はもちろん、家庭や地域と共有します。そして、次の４つの視点を中心にしながら、PTA やコミュニティ・スクールと連携して取り組んでいきます。

1　授業の改善

本町は秋田県で行われている「探究型」の授業を目指しています。授業の中で子どものアウトプット（発信）の場面を多くするなど、主体的で対話的な授業へと改善していきます。

2　教育課程の再構成

「総合的な学習の時間」が体験活動中心になってしまっている傾向があります。体験の後には、「まとめる」「発表する」場面を設けることで子どもたちの学びを確かなものにできます。確かな学びという観点から「新しい教育課程」を検討し、構成していきます。

3　家庭学習の強化

家庭学習（自主学習）の時間が全国・全道よりもかなり少ないという実態が何年も続いています。子どもたちに「自主学習ノート」に取り組む習慣をしっかりと定着させる仕組みをつくります。

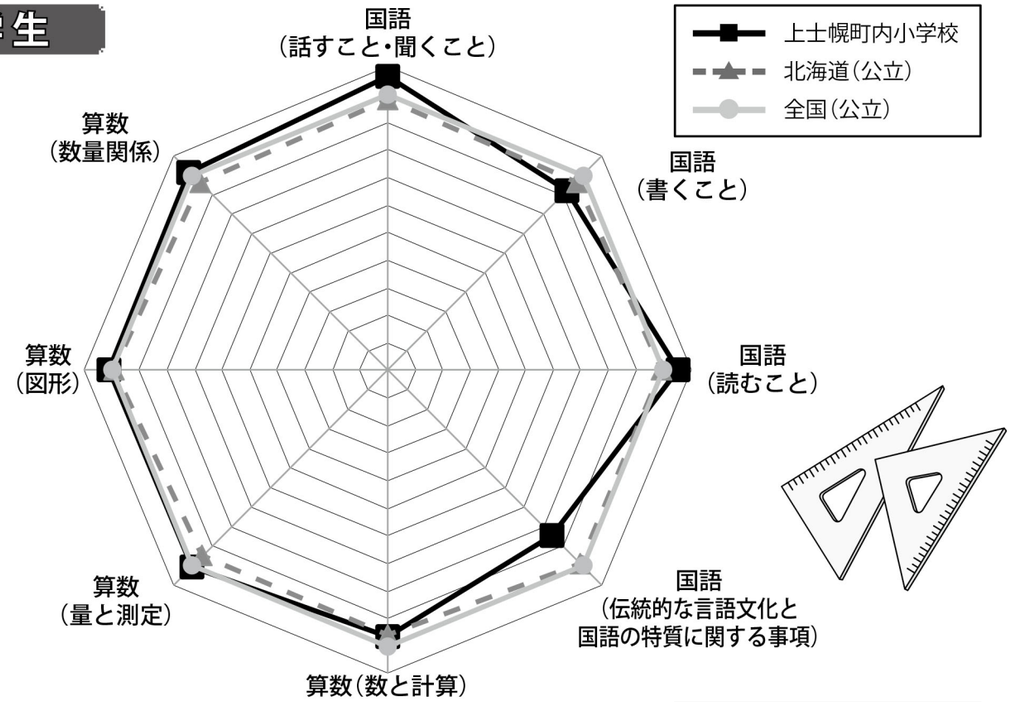
4　チーム力の向上

本町は、地域とともにある学校づくりを目指しています。学力の向上は学校だけの課題ではありません。学校と地域がチーム力を発揮して、子どもたちの「学力」を向上させていきます。

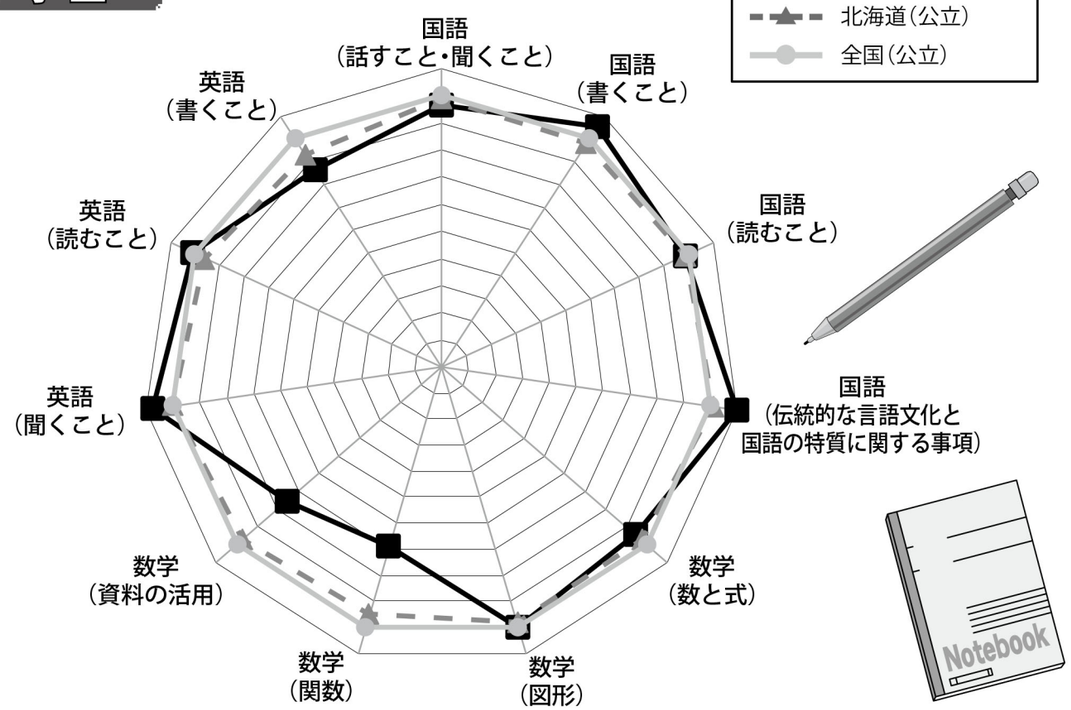
児童・生徒の学力の傾向

【全国平均を「100」とした場合の上士幌町と全道平均の状況】

小学生



中学生



※お問い合わせは、教育委員会教育推進課（☎2-3014）まで